

東日本大震災後3年間の宮城県における 妊娠女性の精神的ストレスの経年変化

Tanoue et al. The prevalence of psychological distress during pregnancy in Miyagi Prefecture for 3 years after the Great East Japan Earthquake. 2021;26(1):27. doi:[10.1186/s12199-021-00944-2](https://doi.org/10.1186/s12199-021-00944-2)



【はじめに】

大規模な災害での被災は、周産期うつ病などとして妊婦の精神的な健康状態に影響すると言われています。周産期うつ病は産後の母親の健康にも影響し、新生児の成長と発達に影響を与える可能性があります。それでは、大規模災害は、いつまで妊婦の精神的な健康状態に影響を与えるのでしょうか。本研究では、東日本大震災から数年間に渡る妊婦の精神的な健康状態を、被害が大きかった宮城県と他の地域の間で比較しました。

【調査項目】

宮城県と福島県以外の全国13地域のエコチル調査センターで調査に参加している67,882名、および宮城県から参加している8,270名（内陸部在住5,015名、沿岸部在住3,255名）の妊婦を対象としました。2011年5月から2014年4月までの期間を6か月ごとに分け、各時期で精神的苦痛を測定する6つの質問に回答してもらいました。各質問は0～4の点数で回答するもので、点数が高いほど精神的苦痛の度合いが高いことを示します。本研究では、合計点数が13点以上の対象者を精神的苦痛があると分類し、解析しました。



【結果】

【精神的苦痛のリスク】

| | 2011年5月 ～ 2011年11月 | 2011年12月 ～ 2012年4月 | 2012年5月 ～ 2012年11月 | 2012年12月 ～ 2013年4月 | 2013年5月 ～ 2014年4月 | 2014年5月 ～ 2015年4月 |
|--------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 全国13地域 | 基準値 | 0.95 | 1.14 | 1.15 | 1.21 | 1.18 |
| 宮城県全体 | 1.92 | 1.59 | 1.55 | 1.89 | 1.38 | 1.86 |
| 内陸部 | 1.86 | 1.74 | 1.85 | 2.19 | 1.67 | 1.75 |
| 沿岸部 | 2.05 | 1.37 | 1.10 | 1.47 | 1.00 | 2.06 |

上の表の数字は、精神的苦痛のリスクを解析したオッズ比です。この数字が高いほど、精神的苦痛が起こりやすいことを示しています。

調査した全ての期間で、宮県県の対象者は、全国13地域よりも精神的苦痛のリスクが高い結果となりました。また、津波の甚大な被害を受けた沿岸部だけでなく、内陸部でも精神的苦痛のリスクが高くなりました。

【この調査でわかったこと】

東日本大震災から3年のあいだ、宮城県では妊婦の精神的苦痛リスクが高い状況が続いていることが分かりました。特に宮城県内陸部では、精神的苦痛リスクが他の13地域よりも一貫して高いことも分かりました。大規模災害後は妊婦が不安なく過ごせる環境を維持し、被災地の周辺地域を含めた長期的な支援を行うことが重要であるといえます。